

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990200156		
法人名	株式会社 ハートフルケア		
事業所名	グループホーム ひなた庵		
所在地	栃木県足利市小俣町291-3		
自己評価作成日	平成26年11月1日	評価結果市町村受理日	平成27年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kicenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成26年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひなた庵では入居者の方々積極的に散歩など外出ができるようにしています。またホーム周辺は古い住宅街で高齢者も多く住んでいて散歩に出掛けるとご近所の方々にも挨拶をして頂けるようになってきました。行事などでもご近所の方や同じ小俣にある保育園の園児達にも慰問に来て頂いたり地域のつながりを大事にしています。ホームの暮らしでは落ち着いた共有スペースを心掛けたり、個人の居室でもなるべく希望に沿った馴染みの物を持ち込んで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

渡良瀬川の近くの閑静な住宅街にあり、足利市では初めての小規模多機能型居宅介護との併設事業所で、夜間時はお互いの夜勤者と連携を取り合う体制になっている。自治会に加入しており、地域の祭りや高齢者のふれあいサロンにも参加している。事業所の行事に地域住民の参加があるほか、散歩途中の利用者に声をかけてくれたり、野菜の差し入れがあったりと、地域の一人として良好な関係を築いている。開所時に定めた「利用者が生きがいと尊厳のある自立した生活と自己決定ができるように高度な介護技術を活かしながら支援する」という事業所の理念を管理者と職員が共有し、利用者が家庭的で落ち着いた雰囲気の中で生活ができるよう、サービス向上に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目につく玄関横の掲示板に事業所理念を掲げ、職員がいつでも確認・実践できる様になっている。	「利用者様が『生きがい』と尊厳のある自立した生活と自己決定ができるように高度な介護技術を活かしながら支援します」という理念が玄関に掲示しており、管理者と職員はこれを共有しながら、利用者1人ひとりに沿ったサービスに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り・催し物・サロンなどに積極的に参加し雰囲気や会話を楽しめるようにしている。また散歩する機会を多く持ち地域の人達とあいさつや交流したりと施設の中にとどまらない様に心がけている。	自治会に参加し神社の祭りなどに参加している。高齢者サロンに参加し、顔見知りになった方がその後訪問してくれることもある。散歩中には、地域の人が声を掛けてくれる。近隣の人に事業所を理解してもらい日頃の交流を深めている。また、舞踊などのボランティアや保育園児の訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ活かしていないが地域住民の来訪時、職員より施設内での生活の仕方や支援の方法など話すようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではサービス内容や活動報告などをして推進委員の方々に色々な評価、意見を頂きサービス向上に努力している。	運営推進会議は2ヶ月に1回、定期的開催し、利用者・家族・市担当者・地域包括支援センター職員・現及び前民生委員の参加により利用者の状況や行事の報告、意見交換等を行い、委員からの意見をサービス向上に活かすようにしている。	運営推進会議に、民生委員以外にも警察関係・消防団・婦人会など幅広く地域の方に参加を働きかけるなど、地域の理解を更に深め、意見を取り込み、サービス向上に活かされることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政の担当者に相談事などあったら連絡を取り、サービスの向上に努めている。	運営推進会議に毎回市担当者が出席しており、事業所の状況や取り組みを伝え、情報の提供を受けるほか、相談にも乗ってもらっている。また、市主催の研修にも当事業所の職員が参加するなど、市との連携強化に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員同士で身体拘束をしないケアについて日頃から考え話し合い、取り組む様になっている。	玄関は玄関の施錠をせず、外へ出るような素振りの利用者に対しては、職員がさりげなく見守って一緒に外へ出るなどの工夫をしている。利用者一人ひとりに敬語で話し、職員間で利用者に対する言葉づかいにも注意している。職員会議や毎日の連絡ノートも活かしながら、拘束しないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が研修で学んできた虐待防止について情報交換を行い、普段の介護方法と照らし合わせ話し合いを持つようにしている。職員間でストレスを感じた時は他の職員がカバーするようにしている。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在では利用している入居者はいないが、以前成年後見人制度を利用していた入居者の実績があるので、これからも権利擁護について話し合いたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約をする際は、本人と共に家族にも同席して頂き、理解・納得を得て入所して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の家族が来所された時などに、職員から日常の様子など説明している。その他家族からの要望など無いか確認している。	玄関に「意見箱」を設置している。運営推進会議や家族の訪問時、受診時に話を聞き、意見や要望等を把握している。また利用者の状況を家族に毎月報告し、家族が来られない場合は電話で連絡をとり、得られた情報は職員間で共有し、サービスや運営に反映している。ホームページでも事業所の状況を紹介して意見等がしやすい環境を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の申し送りや定期的に行っている職員会議などアカンファレンスの時間で運営に関する意見を聞く機会を設けている。	管理者は日常的に職員から意見が出やすくなるような雰囲気づくりに努めている。毎月の職員会議や毎日の申し送り時等でも職員の意見や提案を聞いている。職員からの意見で、風呂場入り口の手すりの設置、掃除機の買替え等にも繋がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が介護に対してやりがいを感じ、向上心を持って働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に積極的に参加しており、職員のスキルアップに努めています。新人対して経験のある職員をつけ人材育成も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他社の同業者ではないが、同グループ内での施設職員レベルの情報交換の場を月1回設けておりサービス向上に努めている。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず入所前に、在宅や施設訪問して本人の意思要望などを傾聴し不安が軽減されるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にも安心して頂く為に、入所に向けた事前の話し合いや入所後の訪問時にも家族の方話を聞けるように努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームという所から説明して納得して頂いてから、担当ケアマネージャーと共に話し合いその時必要としているサービス利用について検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が身の周り全部行うのではなく入居者の方にも出来るところを手伝って頂き、日々の暮らしの知恵などを聞きながらお互い助け合って過ごしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来訪時には生活状況を伝え、共感や理解して頂けるようにしています。また行事などある時は声をかけ一緒に楽しんで頂き、家族での外出外食でも可能な限り促しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室へ行く入居者の支援やドライブで慣れ親しんだ場所へ行ったりしています。	家族からの情報などで利用者のこれまでの生活習慣を把握し、本人の希望を聞き、馴染みのお店へ買い物に行ったり、以前に行った所などへのドライブに出かけている。知人の訪問なども歓迎し、これまでの関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握し、座席配置や日々の過ごし方でお互い支え合い楽しく過ごせるよう努めています。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても連絡があれば相談など対応します。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常会話の中から入居者の思いや希望を理解し、職員会議等で話し合い共有しながらできるだけ意向にそえる様に検討し、努めている。	入居時に、家族、本人から思いや希望・趣向等を確認し、日常の支援でも一人ひとりのつぶやきや表情から意向の把握に努めている。入浴時や就寝時に寄り添うように言葉かけをし、日頃聞けない話を聞けることがあり、情報は職員間で共有し、本人の意向に沿ったサービスができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人の生活歴や暮らし方を聞き、本人に合った過ごし方ができるよう支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方や会話など気になった行動など経過記録に記入し情報の共有をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々に担当職員を配置し、より良い暮らしのため日常生活の中より課題を見つけ、本人家族と話し合い意見を取り入れる様にしています。職員会議のケアカンファレンスでアイデアを出し合い介護計画を作成しています。	介護計画は、利用者一人ひとりに担当職員を決め、毎月1回、全職員でケース会議を行い、利用者の記録の報告・家族の意向を検討し、ケアマネジャーがまとめている。半年に1回モニタリングして計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者に変化があった場合は経過記録や連絡ノートなどケアの仕方や工夫も記入し職員間で情報を共有している。また介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に考慮し様々なニーズに迅速に対応するように努めている。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天気の良い日や地域の催し物がある時は、散歩など外出し地域の人達と交流できる様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に本人の希望する医療機関を受診して頂いています。入居者のかかりつけ医と連絡を取り良い関係を築けるよう努力しています。特にない場合は協力提携しているてらうち内科小児科医院の往診にて適切な医療を受けています。	かかりつけ医は本人・家族の希望を尊重しているが、ほとんどの方が往診のある協力医に変更している。内科以外の受診は原則家族にお願いしており、事業所・家族・医療機関間の情報の共有はメモ等で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームでの看護職の配置はありませんが同一敷地内の小規模多機能型居宅介護の看護職員と連携を取り対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の病状により入院の場合は、てらうち内科小児科医院を通じて入院先を決めたり、また入院先、家族と連絡を取り合いながら早期退院できるよう努力しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予測される場合本人、家族、主治医と話し合いをする機会を持ち終末期に向けた準備が出来る様にしています。	現在まで看取りの事例はないが、併設の小規模多機能型居宅介護事業所での経験がある。本人・家族の希望があれば、ターミナルケアへの対応も職員に説明し、協力医の指導のもと対応できるよう準備している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不定期であるが施設内外の救命講習等の研修に参加し職員の誰もが緊急対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合避難訓練(火災通報装置)は消防署、防災会社(通報装置指導)等との立ち合いのもと、年二回行っている。この時消火器取扱いについても講習を行っている。	年2回、消防署立会いの夜間を想定した避難訓練と、防災会社立会いの避難訓練を実施している。火災時等には自動で職員の携帯電話に繋がる通報システムがある。スプリンクラー、火災通報装置は設置されている。	併設部分を含め利用者の避難誘導の初期段階では(特に夜間)職員のみでの対応となっているため、限界があると思われる。地域の方や消防団員等に避難訓練への参加を呼びかけるなどして、地域の協力体制を築く取り組みを期待したい。また、備品や飲料水・食料の備蓄にも期待したい。

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者を尊敬や尊重し言葉使い、表情や行動等に注意しています。プライバシーの確保にも注意した支援に努めています。	職員は利用者を人生の先輩として、利用者一人ひとりの人格を尊重し、常に敬語で話しかけている。排泄時も、さりげなくプライバシーを損ねないよう配慮している。プライバシーに係る書類記録等は目につかない場所へ保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方が、思いや希望を言いやすい雰囲気作りをし、その主張を大切にして自己決定できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望を優先し、1人ひとりのペースでその人らしい暮らしができるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容から始まり、お化粧品やマニキュア顔そり等本人の希望があればできる様に支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その時の季節の物を取り入れ、調理法や味付け盛り合わせなど入居者の方と一緒に準備し、食事の時の会話にもつながる様にしている。	職員が栄養面等を考慮し、苦手なものを食べやすく調理するなどの工夫をしている。職員は見守りや会話をしながら利用者と一緒に食事をしている。利用者の誕生日や正月・ひな祭り・七夕等、季節に合わせて楽しく食事ができるよう外食を含めて支援している。食材の買い出しに週2回程度、利用者と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分補給量が、確認できるように健康チェック表に記録しています。献立ノートを作り、バランスの良い食事を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し口腔内の状態を観察し、清潔に保てるように支援しています。		

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	健康チェック表を活用し排泄パターンを予測したり尿意・便意を思わせる表情しぐさに注意し、誘導できるようにしている。また長時間トイレに立たない方には声掛けをしている。	現在殆どの利用者は見守りで、自立で排泄ができる状況だが、日々の健康チェック表で利用者一人ひとりのパターンを把握し、表情の変化をキャッチして、さりげない声かけや態度で誘導し排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな入居者には、水分補給を多めに促し日中の運動の声掛けや腹部マッサージを行い食べ物でも食物繊維の多いものを提供する様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に1回の間隔で入浴できるようにしています。なるべく時間にとらわれず、本人の希望を聞きリラックスできる空間作りをしています。	入浴は、3日に1回、午後3時以降に利用者と職員が1対1でリラックスした状態で会話をしながら支援している。季節湯(ユズ湯やショウブ湯)や入浴剤で香りや色を楽しんでもらい、心地良く入浴できるように工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく安心できる空間を心がけ、居室以外(リビング、畳)でも休息できるようにしています。また夜間気持ちよく寝れるようベットメイクにも気をつけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の内服薬は、処方箋を毎回確認し内容を理解するようにしている。服薬後の変化についても気づくように観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や興味などの支援、生きる力となる様な楽しみなど気分転換ができる様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	過ごしやすい季節は、施設周辺を散歩またはドライブができるように支援しています。また家族に本人の希望を伝え外出できるようにしている。	天気の良い日は日常的に近くの散歩コースに出かけ、週2回程度ドライブがてら食材の買い出しに行っている。時には釣り堀へ行って外食を楽しむ等、五感刺激が得られる外出支援を行っている。また、家族へ一緒に外出できるよう依頼をするなどしている。	

グループホームひなた庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者同士の金銭のトラブルにならないように、家族の了解のもとお金を預かり、必要な時に使えるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者、家族の状況により対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の共有空間には、職員と入居者で季節感のある物を作ったり、草花を飾ったりして四季を感じる事のできる快適な空間づくりに努めている。	ホールには畳でくつろげるスペースやソファがあり、居心地の良い空間になっている。日差しが豊かに入り、全体的に明るい雰囲気づくりで、利用者の作品や季節に沿った装飾品が飾ってある。きれいに清掃されており、トイレや洗面所は臭いも無い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が気軽に過ごせる玄関前のベンチ、腰を掛けたり横になったり出来る畳や、複数で座れるソファなどがあり、思い思いに過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には馴染みの物など持ち込んでもらい、本人好みに居心地の良い空間になるよう努めている。	居室は温度管理がされ、窓からの眺めで季節を感じることができる。自宅から持ち込んだ馴染みの物・写真や仏壇があり、温かい雰囲気になっている。各室にスプリンクラーが設置され、床もきれいに清掃されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設敷地内では、より安全安心して生活できるように居室などに札を付けたり環境整備し自立に向けて努力しています。		